

2026年創立100周年に向けて、 ロゴ・スローガンが決定!

創立100周年のその先を見据えて

学園創立100周年となる2026年を5年後にひかえた2021年、法人本部を中心にSG100プロジェクトチームが立ち上がりました。

それは、100周年はもちろんのこと、次の110年、120年、そして、その先を見据え「四條畷学園」としてどのように迎えるか、を議論するためです。各校園の方向性・ベクトルをどのように合わせたらいのだろうか、と時にはプロジェクトチームで議論し、またそこに教員も参加することもありました。また、学内全体へのアンケートを行い、各校教員のインタビュー、主なメンバーとの議論も行ってきました。

目指すべき姿の共有のため ロゴ・クレドを作成

その結果、まずは学園の「目指すべき姿の共有」が大事なのではないかと、いう結論に至ります。そして、100周年が3年後に迫った今期、100周年ロゴ・クレドの制作に着手いたしました。ロゴに付随するタグラインは「ブランドメッセージ」とも言われ、組織やブランドの理念を表すものとなります。今回のクレドでは、これまでの「理念」や教職員の「合言葉」に留まらず、学生・生徒・児童や保護者の皆さんへの「約束」となるメッセージの意味も込められています。

策定・制作の目的としては、以下の3つとなります。

- ・総合学園としてのブランディング
- ・建学の精神・教育理念の徹底・浸透による組織風土改革
- ・記念事業周知・徹底のためのHPやその他広報ツールとしての活用

広く意見を求め同窓生の声も参考に

制作にあたっては、現任教員だけでなく、学園同窓生にもインタビューを広げ、90周年誌や同窓会誌に寄せられた数多くの同窓生の声を参考にしました。学園の「スピリット」を再確認する中で、導き出されたのがこのロゴとクレドに込められたメッセージです。

学びの形は変わっても 建学の精神は受け継がれる

時代の変化を前提に、これからの学園が目指す姿を、「知識を学ぶ場」から「知識や体験を通じて“学び続けること”を学ぶ場」へと明確にしたメッセージとなりました。普遍的な言葉の裏に、牧田先生の創立からの思い、代々教職員の中に受け継がれてきた精神、生徒・児童へのまなざしが込められたものとなっています。任された仕事、日々接する子どもたちの年代は教職員それぞれに違いますし、場所もさまざまです。「総合学園」といわれながらも、それぞれ独立した現場での運営が行われており、目の前のことに集中をすればするほど、隣の校園で何が行われているのか、何が起きているのか、誰がいるのか、が見えづらくなります。

Tag Line

在籍中に“学ぶ喜び”と出会い、社会に巣立ってからでも自走しながら意欲的に生涯学び続けられる。学園がこうした人をつくる場であり続けることを端的に表現しています。

Logo

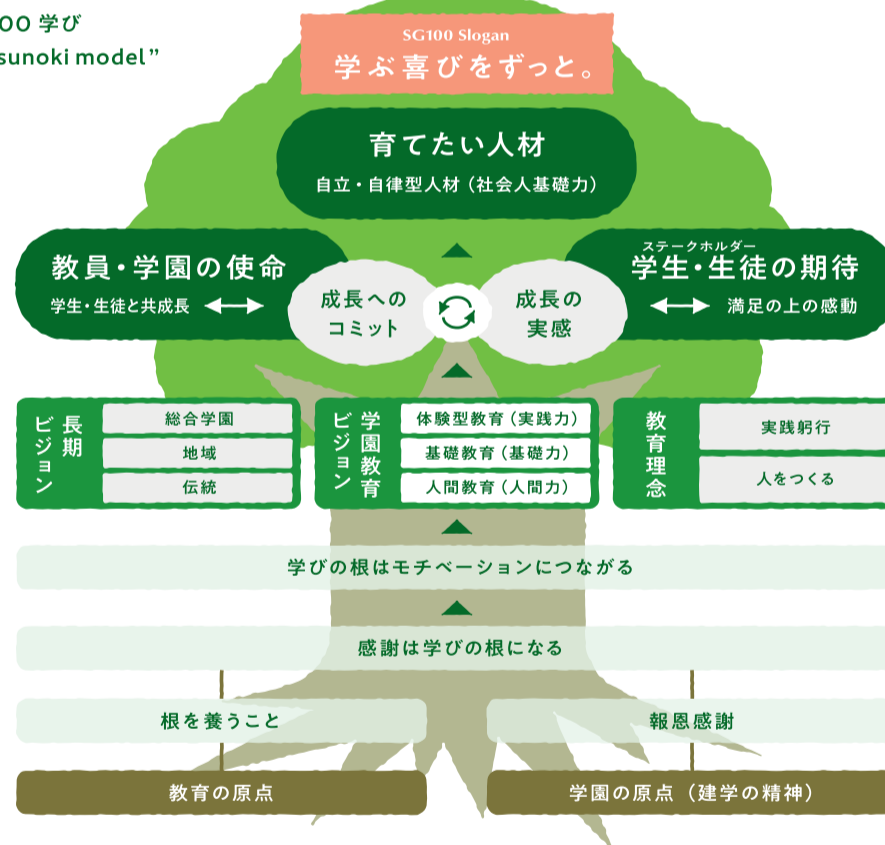
学園の樹でもある「クスノキの葉」を用いながら、人間力を大事に育む学園らしさを表現するために、“人”を中心に据えてシンボリ化。生き活きと躍動する人を描いています。

学ぶ喜びをずっと。



SHIJONAWATE GAKUEN Since 1926

SG100 学び
“kusunoki model”



社会の変化に対応できる人材を

このロゴとクレドが、縦横のつながりを生むことが期待されます。皆が在籍中に“学び続けること”を会得すれば、どんなに社会が変化しても対応できる「生きる力」を備えた「人をつくる」ことができる。そのような考え方が表されています。

学園が大事にすべきもの

メッセージを揃えることに意味があるのだろうか。本当に各校園に共通したものが生まれるだろうか、とプロジェクトチームも当初は困惑の中からのスタートでした。しかし、時代を超えて、現場を超えて、皆さんから語られる事実、想い、言葉の中に共通したものがあ

りました。学園に関わる皆が本当に大事にすべきことはなんなのか、という価値観がありました。

次の100年へ向かって

100周年を迎えるにあたり、そして、110年、120年、そしてその先の学園の発展に向かって。皆さんと、この言葉を胸に、進んでまいりたいとおもいます。

「学ぶ喜びをずっと。」